

な か ま

発行
佐倉市立中央公民館
なかま編集係

〒285-0025
佐倉市鍋木町 198-3
電話 (043) 485-1801

2 ページ	雪斎樂事	戸井 和雄	押し花との出会い	増田 鎮男
3 ページ	遙かなる座禅道	佐々木 栄	現代檜山節考	佐藤 道惇

ドラマチックな旅

横 山 三 寿

「岩手北部地震」を覚えて
いますか。六月十四日に発生
した「岩手・宮城内陸地震」
に続き七月二十四日に発生し
たものである。奥入瀬渓流沿
いで落石があり、道路が通行
止等の被害があった。復旧は
早かったが夏の観光シーズン
を迎える東北地方では、ツア
ーのキャンセルが相次いだそ
うだ。

昨年この地方を旅して、自
然や多くの観光地に堪能し、
ドラマチックな体験をした旅
を振り返ってみたいと思う。

「新緑の奥入瀬渓流沿いを
歩いてみたい」と言う夫と、
十和田、奥入瀬、八甲田の平
凡な二泊三日のツアーに申し
込んだ。出発日は、一週間前
に発生した台風四号が大型化
し、「今日にも房総半島直撃
か、その後東北地方へ向かう」
という予報がでた、そんな状

況の中、小雨降る早朝家を出
発し、一路盛岡をめざした。
ところが、嬉しいことに、北
の盛岡では、まだ台風の影響
がなく晴天だった。今回の旅
で、私が目的としていた十和
田湖畔に佇む「乙女の像」を
見物、向き合った像の片方は、
湖に映る姿を表現しており、
眼が空洞になっているのは、
どの角度から観ても、視線が
合うように造られたそうです。
精巧に造られた像に感動し、
暫くこの場を離れられなかつ
た。

二日目の奥入瀬散策の出發
点、「子の口」で降り出した
雨は、暫くしてやみ、溪流と
多くの滝を堪能し、ついでに
森林浴も満喫して、九の散
策を終えました。

そしてドラマチックな三日
目は、昨夜から降り続く雨の
中ツアーは、予定通り八甲田

に向かった。車中ガイドさん
から「昨日のロープウェーは、
強風で運休した」と説明があ
ったが、今日は運休にならな
いように願うばかりでした。
願いが通じたのか八甲田山に
近づくにつれ、天気も回復し
青空が見えてきた。ロープウ
ェーで辿り着いた山頂では、
紺碧の空と、遠く山々や下
北半島まで見渡せた。天候を
心配しながらの今回の旅は、最
後の観光地八甲田山で、天気
に恵まれた事に感謝・感謝。
興奮がみで立ち寄った国民
温泉「酸ヶ湯」で耳にしたニ
ュース、一瞬三年前（二〇〇
四年）の「新潟県中越地震」
の再放送と聞いたが、午前中
（七月十六日十時十三分）に
発生した地震（後に名づけら
れた新潟県中越沖地震）のニ
ュースである。旅行を満喫し
ている人がいる一方で、二度
も続けて災害にあった人もい
ることの違いに、複雑な思い
がした。

（編集委員）

雪斎樂事

旧堀田邸の床間に掛軸がある。掛軸には太字で樂と書かれ、その上部に細字で樂の内容が、左側に源桂閣の銘がある。この「樂」の掛軸は明治九年冬の屋敷の主であった堀田正倫の依頼で、甥の源桂閣の手による書である。源桂閣とは正倫の姉の子で最後の高崎藩主大河内輝声である。明治二十三年正倫は東京から佐倉に移住しますが、その目的は権勢や虚飾の渦巻く都会を離れ、静かな環境で素朴に暮し、国力の源である教育や農業に力を尽したいということでした。それは正にこの掛軸の樂の意味するものと一致するものでした。

昨年の或日、私は歴博所蔵の古文書、佐原の伊能茂左衛門家文書の整理作業をしていて、伊能景晴の日記に「清江之蘭香雪斎樂事」と書かれた文章を発見し驚きました。こ

れは、文久元年二月二十三日付で、堀田邸の掛軸で見た「樂」と全く同じ文章だったのです。雪斎とは、駿河国生まれ、京都建仁寺で修行、妙心寺の大休宗休の法をつぎ、駿河国臨濟寺を開創し、清水の清見寺等の住職となり、後に駿河の今川義元を補佐して戦国大名間の和議斡旋につとめた人である。この文章には静かな環境の中で善人の善行や善言を学び飾りのない質素な生活、多様な友人と交わり、自然を楽しみ、正直で潔い等と、雪斎の楽しみが書かれている。

幕末を京都妙心寺に過ごした正倫と同じ妙心寺で修行した雪斎の心に通じるものがあるのであらうか。そして佐原の文人伊能景晴の日記に見たもの壮大で混乱に満ちた歴史の中に変わらぬ心の流れを感じ、様々な人々の交差と時代の変化等の思いは尽きないのである。

(城内町 戸井和雄)

押し花との出会い

定年を迎え、これから何をするのが決まっていけない時に園芸科のある学校に入った。講義のなかに、二時間だけ「押し花」という授業が組まれていた。そこでは「しおりとハガキ」を作った。先生が寄贈された「ボタンの絵」の作品を見た時、こんな素晴らしい押し花の絵ができるのかと驚き、感動したのを覚えていた。それ以降、クラブ活動を立ち上げ毎月一度のレッスンを受けて現在はインスタグラムクターの資格を取得するまでになった。

所属は、日本ヴォーグ社の「ふしぎな花俱樂部」という所で、男性は日本で僅か65名と非常に少ないが「男の押し花俱樂部」のメンバーとして、関東近郊の先生方との交流や勉強会等で新しい出会いの場ができるようになった。

市民カレッジでは、同級生

と一緒に一年生の夏休みと春休みに数回ずつ練習をした。自分が感動した押し花を仲間にも味わってもらえればと考えていたのがはじめた理由である。昨年の文化祭には「押し花グループ」として46点の作品を展示させてもらった。蕨総長も展示会場にお見えになり、押し花作品にも興味をもたれ、後日、作り方などを説明させていただく機会があった。今年も、春休みに各人1点制作してあるので、夏休みも頑張れば去年より多くの作品が出品できるのではないかと大いに期待している。

僅か、二時間の授業が新しい趣味となり、いろいろな出会いや仲間作りのきっかけになったことに感謝している。教育の素晴らしさと重要性や積極的に参加することの必要性を感じ、これからもずっと続けようと思っている。

(稲荷台 増田鎮男)



遙かなる座禅道

早朝座禅を終え、趣味のイタリア語の勉強に取り組んでいた午前七時四十五分頃、携帯電話が突然鳴った。結婚して東京に住んでいる長女がメールで、「日テレで、座禅と写経についての特集をやっているよ」と知らせてきたのだ。

すぐに勉強を中断して、チャネルをひねる。ズームインスーパードという番組が、最近若い女性の間で、座禅と写経がブームになっていると放映していたので、思わずニヤリとした。定年後、熱心だったゴルフや競馬から少しずつ身を引き、生活の中心を座禅や写経、それにイタリア語の勉強に移した甲斐があるというものだ。

しかし、よく考えてみれば、今時の若い女性たちと好みが一致したからといって、それで今更何が期待できるのだ。

なんとなく腹立たしくなり、番組終了後、「お前も座禅を始めたらどうだ、喝！」とのメールを送りつけた。親切心が仇になった娘は、逆ギレじみたメールにビックリしたのとだろう。

昨年の五月初旬から、自宅から自転車で十五分ほどのところにある臨済宗の古刹で、最初は座禅を、三カ月後から写経も始めたのだが、今では欠かさず自宅でも座禅を実行している。私が通うこの禅寺は、庭も建物も大変きれいで、座禅会や写経会は無料である。おまけに、抹茶や煎茶、それに昨年より小振りになったのは少々気になるが、和菓子のサービスもある。しかし世の中、只より恐いものは無いというではないか、時々はお布施をしなければ、と思う今日この頃である。

(井野 佐々木 栄)



現代檜山節考

「来る。月。日午後五時から、さくらホールにて小生のお別れ会を行いますので、何卒お繰り合わせご出席賜りますようご案内申し上げます。」

先月「安楽死法」が施行され、晴れて「最後の晩餐会」を開く事ができたのだ。忙しい通夜の後の「お清め」に集まってもらっても、互いに歡を交わすことはできない。

私は絵や俳句の趣味がなく、専らゴルフや庭仕事など身体を使う事に老後の楽しみを見出してきたが、老化してゴルフができなくなりボウリングに転向した。今後もつと衰えて殆ど動けない状態になったら何を生きがいに見光すればよいのか。介護者の世話になつて老醜を晒すよりは、早く死なせて貰いたいと願うだろう。その時に痛かったり苦しんだりするのは嫌だ。

同じ思いの寝たきり老人が

大勢いることは知っていたし、呑み会でも同様の話が出る。それなのに、そういう安楽死願望の声はマスコミにはなかなか現れなかった。働き盛りの論客達には、自らの終末期など考える余裕が無かったのかも知れない。

それでも次第にこういう老人達の真剣な思いが報道されるようになった。一旦公の場で議論が始まると、反対の根拠となっていた偏狭な死生観に基づく倫理が影を潜め、たちまち賛成論が優勢となった。安楽死が嫌だったならその制度を利用しなければ済むのだから、反対する理由がないのだ。そしてついに念願の「安楽死法」が成立したのである。

これで私は安心して長生きすることができると。

(鍋木町 佐藤道博)



9月の黒板

『なかま』原稿募集のお知らせ

『なかま』の2・3面は、市内の皆様の投稿によって作られています。原稿は随時募集しています。

[原稿規定] 字 数 650字(13字×50行)以内。ワープロによる原稿(縦書き)でも結構です。

内 容 随筆・・・日常の出来事、生活の中で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などご自由にお書きください。

『なかま』に対するご意見・ご感想などもお待ちしております。

いただいた原稿は、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただきます。

問い合わせ 佐倉市立中央公民館 (第2・第4月曜日は休館日です)

電話 485-1801

URL <http://www.city.sakura.lg.jp/kominkan/cyuou/index.htm>

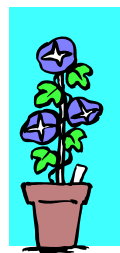
さくら道

日頃殺風景な我が家の駐車場に、このところ朝顔の花が咲き出して、朝のひとときを楽しませてくれています。

市民カレッジの授業の中に「世代間交流」という時間があります。カレッジ生が小学校へ出向き、昔の遊びなどを通して共に学び語り合う楽しい時間です。その時の子供たちからお礼として頂いた種を

蒔いて育てたものです。種まきの時期が遅れたので心配しましたが、すくすくと育ち、ブルーの濃淡の見事な大輪の花を咲かせてくれました。

連日の猛暑で少々夏バテ気味の昨今ですが、さわやかな朝顔の花に癒されながら、子供たちが美しい大輪の花を咲かせてくれることを願うばかりです。



あがとき



八月の暑いさなか、時差一時間の北京オリンピックのテレビ観戦を存分に楽しめたことと思います。

戸井さん、歴史は小説より奇なりですね。「楽」の掛軸をじっくり鑑賞したくなりました。

増田さん、今年も素晴らしい作品を文化祭に出品して下さい。期待しています。

佐々木さん、若い娘さんの間で座禅・写経がブームになっているとは微笑ましいことで、それこそ邪念を捨て素直に喜ばれたらと思います。

確かに空しい延命治療はゴメンだという人が増えて、佐藤さんのように、一日も早い「安楽死法」の制定施行を心待ちしている人も増えてきているように思います。

今月もバラエティーに富んだ投稿有難うございました。今後共引き続きよろしく願います。

(池田)